

八王子市における学習施設の周知率を上げる！

We would like to raise the awareness rate of learning facilities in Hachioji City !

創価大学経済学部経済学科 チーム Education
 高桑英雄, 鈴木孝明, 杉田宣斗, 飯田美麗, 原沢茉帆
 指導教員 金澤伸幸
 創価大学 経済学部 経済学科

八王子市の学習施設周知率向上のため、予約・空き情報・アクセス案内が一体化した大学生向け専用アプリを提案。ポイント制度で利用促進し、学生の学習環境改善と地域活性化を目指す。

キーワード：学園都市八王子活性化, 無料学習施設, 学習施設周知, 学習施設周知アプリ

1. はじめに

八王子市は多くの大学と学生が集まる学園都市であり、地域内には学習施設が点在している。しかし、私たちの調査では多くの学生が市内の学習施設の存在やその利用方法について十分に把握しておらず、学習環境の選択肢が限られていると感じていることが分かった。学生が快適に学べる場所を見つけることが難しい現状は、学習効率や生活の質にも影響を与えている。このような背景から、本報告では八王子市内の学習施設情報を提供し、利便性を高めるアプリの開発を提案する。これにより、大学生が自身のニーズに合った学習環境を円滑に利用できるようになり、学園都市八王子の大学生の学習効率や生活の質が上昇することが期待される。

2. 現状分析

今回私たちは、創価大学の学生を対象に「八王子市学習施設の認知度アンケート」を実施した。この調査では、創価大学の学生に対して、八王子市が運営するフリースペースの認知度や利用頻度などを把握し、今後さらに周知させていくための方法に活用することを目的としている。調査方法としては、Google フォームを使用し、以下の4つの項目についてアンケートを行った。「生涯学習センター(クリエイトホール)」、「生涯学習センター南大沢分館」、「生涯学習センター川口分館」のうち知っているものはあるか、「利用頻度はどのくらいか」、「認知

した時期はいつか」、「何を通じて知ったか」。調査結果として、102人の回答中、この3つの施設のうち、1つでも知っている人数は14人、全く知らない人の人数は88人であり、全体の86.3%が知らないことがわかる(図1参照)。また、何を通じて知ったかの問いから、41.7%の人が友人や家族から知ったことが読み取れる。八王子市のウェブサイト・アプリから情報を得た人の割合は16.7%、地域広報誌からは8.3%である。このことから、八王子市の広報活動を通じて学習施設を認知している割合は約25%である。施設を知っていると回答した割合が13.7%なので、その25%、つまり約3.43%が市の広報活動によって学習施設を知った大学生の割合であることが分かる(図2参照)。

図1 学習施設の認知度

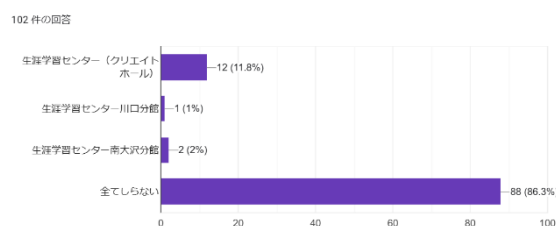
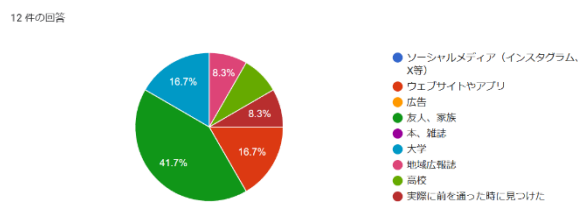


図2 何を通じて知ったか



3. 課題抽出

今回の調査結果から、「学園都市」を謳う八王子市において、学生に対する学習環境スペースの認知が十分でないという課題が浮き彫りとなった。八王子市は複数の大学が集まる地域であり、学習や交流を促進するための施設(例:クリエイティブホールなど)が整備されているが、これらの存在が大学生に広く認識されていない現状がある。この状況は、学生が地域の学習リソースを十分に活用できないだけでなく、「学園都市」としての都市イメージや、地域の学習環境の価値が十分に伝わっていないことを示唆している。

さらに学生がこれらの施設やその利用のメリットを認識していないため、地域内での学習や学生同士での交流の機会が十分に提供されず、結果として学生が他地域に流出する要因とさえなる可能性もある。また学習環境の周知不足は、学生と地域とのつながりを弱め、地域社会の活性化を妨げる要因にもなり得る。このため現代の大学生を中心とした若者世代に対して、学習環境の周知を向上させることが重要である。そこでこの課題に対する政策提言を以下に示す。

4. 施策提案

私たちの施策は、「八王子市の学習施設専用アプリの作成」である。本施策のターゲット層は大学生を想定している。その理由は中高生と比較して大学生の多くは学習塾に通っておらず、塾が提供する自習室を利用できないため、十分な学習環境が確保できていない可能性が高いからである。2021年のベネッセ教育総合研究所の調査では大学生の自主学習時間は、1日平均26分と中高生と比べても一番低い数値となっている。また、自習室などの学習環境が整っている中高生よりも学習環境が整っていない大学生の方が学習施設の高いと考える。以上より本施策の主なターゲットは大学生とする。

現状分析において前述したとおり、私たちの行ったアンケートの結果、八王子市の広報活動により施設について周知できている大学生の割合は約

3%である。また、学習施設を一つでも知っているかと答えた13人の約半数が施設を利用したことがないと答えた。これらのデータから大学生が自ら必要な情報にアクセスできる仕組みづくりと認知から利用までのハードルを下げる政策が必要なのではないかと考える。

具体的な政策内容を述べる。このアプリには以下の3つの主要機能を実装する。1.学習施設の予約機能 2.習施設の空き情報の確認機能 3.現在地から学習施設までのアクセス案内機能(バス停の場所、バス時刻等を含む)である。現在、施設の空き情報等の周知はXで発信されているが、Xのみでは無料予約をすることができず、施設へのアクセス方法も自ら調べなければならない。つまり、施設利用には複数のプラットフォームの併用が必須となっている。提案するアプリではこれらの機能を一元化し、利用者の利便性を大幅に向上できる。

さらに、以下の2つのポイント制度を導入し、アプリの普及促進を図る。1.施設利用によるポイント付与 2.友人招待によるポイント付与。獲得したポイントは景品と交換可能にする。景品は八王子市が提供するため一定のコストは発生するが、利用者の移動等の経済効果や予約数の増加による調的な便益を考慮すると十分な投資対効果を見込める。このような八王子の大学生にとって利便性の高いアプリを一定の大学生が利用することにより、口コミでも広く周知されたいと考える。以上の政策が、私たちが提案する「八王子市の学習施設専用アプリの作成」である。本施策を通して、私たちは学園都市八王子における大学生のニーズに合った学習環境を改善し、八王子市に住む大学生の学習効率や生活の質が上昇、さらには都市イメージや地域活性化に寄与することを目指す。

<参考文献>

ベネッセ教育総合研究所(2019)「第2回 学習時間のあり方を考える その2 どんな子どもの学習時間が長いのか!?!」